

SDGsと共生

—SDGsを平和、メディア、まちづくり、地域・市民社会の活動と研究から語る

2030AgendaSDGs and Kyosei

長岡素彦 (一般社団法人 地域連携プラットフォーム)

NAGAOKA, MOTOHIKO

(General incorporated association Platform for regional cooperation)

2030アジェンダSDGsは「環境」の問題としてとらえられがちであるが、環境問題のみならず、地域と世界をサステナブルにするためのすべての問題を解決するものであるSDGsの基本には生命(生態・環境)があるが、社会や経済も重要な要素である。SDGsは、行政(政府、都道府県)や企業、大学研究者の目線で語られていることが多いが、地域と世界をサステナブルにするための人々の活動からの知見も重要である。

ここでは、SDGsを「平和」「自治体」「市民」「メディア・メディア情報リテラシー」などの多様なテーマで活動をしながらかつ研究をしている方々の話しを聞きながら、共生としてのSDGsのあり方「誰ひとり取り残さない」を参加者と論議したい。

SDGs、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」はSD持続可能な開発に基づいている。SDGsの目標、ターゲットはその一部で、SD持続可能な開発で行われる。

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、前文、宣言、持続可能な開発目標(SDGs)とターゲット、実施手段とグローバル・パートナーシップ、フォローアップとレビューで構成されている。

前文では、5つの重要な点(5つのP)があげられ、そのうちの「平和」では「平和なくしては持続可能な開発はあり得ず、持続可能な開発なくして平和もあり得ない。」となっている。

宣言では、「45(国会議員、政府、公的機関の役割)」で自治体の役割と協働について、「41(国家、民間セクターの役割)」でCSO市民社会組織の役割が規定されている。

また、国連機関、及び、そのプログラムはSDGsへの関与が規定されているが、ユネスコのメディア情報リテラシーでは「5原則」にSD持続可能な開発が挙げられ、また、SDGsのコミットメントを具体的な形にしている。

さて、前文の5つの重要な点のひとつにパートナーシップがある。しかし、現在の政府・自治体、企業などは、パートナーシップではなく、SDGsを組織内で完結する垂直的なガバメントモデルで実施しており、問題も多い。

SDGsの実施については「実施手段とグローバル・パートナーシップ」に規定されている。

しかし、現在のSDGsの実施はSDGsの目標を受容し、その達成を目指す中央集権的「ローカライズ」により、前世紀的な目標達成型組織で行なわれている。ここでは問題の解決ではなく、SDGsの目標を達成することが重要視される。そして、「SDGsウォッシュ」も行われている。これは、組織がSDGsを推進していると公表や報告しているが、実際には見せかけだけの現象をいう。また、自らに不利益になることを隠蔽しながらSDGsを推進しているという「SDGsロンダリング」(長岡素彦)も行われている。

共生「誰ひとり取り残さない」を目指していても、SDGsの実施にはこのように問題も多い。これらを踏まえて論議したい。

(参考)本シンポジウムでの長岡の発表

SDGsに対する市民参画と共生

本大会での長岡の研究発表

SDGs グローカル内発的共生のための「SDGsロードマップ」—中央集権的「ローカライズ」を超えて